

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.24 2014.3.19

グローバル人材育成事業

「明石塾」

2月1日、明石塾長は20名の塾生に対し、英語による講義を行いました。

塾長講義（抜粋）

「明石塾も修了間近になり、皆さんはこれまで様々な講師の先生方から学んだこと、議論したこと、経験したことから何らかの結論に到達しつつあるものと思います。今後皆さんが将来の決定をする際に、明石塾での経験が役立つよう願っております。」



その後講義は塾長自身の東京大学時代の話、35年間に及ぶ国連での仕事、日本と中国、韓国との問題、最近の日本の若者の内向き志向と続きました。前半の締めくくり、「英語を学ぶことは、他の国の人々と協力して何かを成し遂げるために必要な一つの手段であり、多くの日本人が英語の習得に困難を感じている中で、塾生の皆さんはとても幸運なことに、英語だけでなく、コミュニケーションの様々な方法が習得できるよう多くの人に支援していただいているので、それを最大限に活用して視野を広げ、将来の職業選択の幅を広げてください。」と語りかけました。

続いて20名の塾生一人ひとりが、今考えていること、将来の計画、現在直面している問題、困難、そしてそれらをどのようにして乗り越えようとしているかについて2、3分間英語で話し、塾長はその一つひとつに意見、感想を述べました。

一塾生「私は科学者になろうと思っていましたが、明石塾での講義を通して、もっと他国の文化を知って、もっと多くの人に会いたいと思うようになりました。マレーシアの大学を訪問すると、多くの留学生がいました。私も、彼らのような留学生と一緒に研究をしたり、働いたりしたいと思います。なぜなら私の知らないことをたくさん知っていると思うからです。将来他の国々の人たちと一緒に何か役に立つものを発明したいと思います。」

一明石塾長「日本で私たちは一つの言語を話し、本質的に一つの文化に属しています。日本はとても平和で、秩序正しく、安全ですが、文化的に多様ではありません。しかし、世界は多様であり、この多様な世界の中で生きていく上で、お互いに理解すること、つまり調和が大切です。多様な世界で生きると、私たちはお互いが抱える問題に対して敏感になり、常に異なった文化に属する人々がどのように考えているかを念頭に置きますが、それが多くの日本人に欠けているところだと思います。他の国の人々のことを慮り、彼らの問題を自分たちのことのように考え、感じることはそんなに難しいことではありません。世界は多様だからこそ面白いのです。皆が自分と同じように考えているとしたらつまらないでしょう。あなたが世界の多様性と向き合おうとしていることが分かり、大変嬉しく思います。」

「たとえダイヤモンドであっても、輝いた状態で採掘されるわけではありません。岩や小石に混じっています。ダイヤモンドになるためには磨かれる必要があるのです。それは簡単なことではありません。私は、皆さんには輝くダイヤモンドになるための優れた潜在能力があると思っています。皆さんにもそう信じてほしいと思います。ですが、たやすい方法で目標を達成することはできないでしょう。挑戦と失敗を繰り返しながら、曲がりくねった道を進まなければならないでしょう。しかし、この長くて険しい道に、思い通りにいかない道程にがっかりする必要はありません。努力と忍耐を以てしか皆さんの最終的な目標は達成することはできないからです。

私はよく人生において、自分で決めたことに後悔しないと言っています。それは事実です。ですが、決定をする際にはじっくり考え、多くの人に相談し、助言を求めてきました。特に私と異なる意見を持っている人からの助言にじっくり耳を傾け、それについて考えました。私は助言を受け入れることもありましたが、多くの助言を退けることもありましたが、しかし、最終的な責任は自分で取るしかありません。

皆さんの保護者、友人、親戚、先生が多くの助言をしてくれるでしょう。でも、どの助言が皆さんにとって役に立つのかを決めるのは皆さん次第です。自分のことは自分が一番よく分かっているのですから。人生は難しい選択の連続ですが、最終的には皆さん自身が決めなければなりません。後ろを振り向くべきではないし、たとえ間違った選択をしても後悔をすべきではありません。私にはあまり多くの後悔はありませんし、人生は生きる価値があると思っています。ですが、本当に人生が生きる価値があるかどうかを決めるのは皆さん自身です。

若いときは傲慢になりがちです。他の人よりも自分には多くの知識があると思うかもしれません。しかし、時間が経つにつれ、より多くの日本人、また外国の人々に会うにつれ、ある人はある技術で自分より優れていると思うかもしれません。皆さんは多くの人から学ぶことができます。日本だけでなく、国籍の違う多くの人々から。そして彼らとの出会いや経験は、皆さんの一部になり、栄養になるでしょう。それらの出会いや経験から、皆さんは成長することができるのです。途中で失敗をしたとしても、その充実した、やりがいのある過程を通して、皆さんは知的にも精神的にも生涯成長し続けることができるのです。」

3月8日、本学において成果発表会が行われ、第12期生20名が6班に分かれ、7か月にわたる研修で学んだことを報告しました。続く修了式では、塾長から手渡された修了証書を胸に、塾生達は今後も明石塾で学んだことを更に発展させ、国際社会に通用する人材になるべく、努力を重ねる決意を新たにしました。

修了式塾長式辞（抜粋）



「明石塾第12期生の修了にあたり、まず塾生20名一人ひとりの大きな成果に対して、心からのお祝いと労いの言葉を申し上げたいと思います。一言で言えば、よくやったということですけれども、本当にこの7か月にわたって皆さんは普段の学校での勉強、活動をやり遂げつつ、週末を利用して明石塾にも来て、大変な努力の成果をあげたと思います。先ほど行われた成果発表会では、皆さんが素晴らしく英語力を上げたということを示してくれました。英語力のみならず、グローバルな問題—日本が抱えている周辺の国々との複雑な国境線の問題や歴史の問題、経済競争の問題などについて、立派な理解を示し、それに対してどのように対処していったらいいのか、単に腕を組んで悩んでいるだけではなく、どのようにしたらこういう問題を解決できるだろうかと非常に前向きに、こういう問題は解決できるし、また解決しなくてはいけないという思いから未来的な見地に立って考え、解答を探している姿勢に大変感銘を受けました。

塾生の7か月にわたる素晴らしい努力に対しては、本当にお疲れ様ということを申し上げると共に、この努力をここで終わらせるのではなく、これを更に続けること、更に広げることが大切だと思います。ここで終わってしまうのはあまりにもったいない。せっかくこ

まで築きあげてきたことを更に広げ、深めることを切に希望したいと思います。

統計的な数字からしますと、日本の若者は世界中の若者に比べて、やや世の中や将来に対する見方が悲観的だと言われています。高校生の80%以上が将来に関してあまり楽観的ではなく、暗い見方をしているという数字さえ出しています。これはちょっと困ることだと思います。悲観して何もしないことは一番楽なのですが、楽観してその問題を何とか解決しようと悩むことは容易なことではありません。勇気と努力の要ることです。しかしながら、悲観するよりは楽観して自分の力を試してみる。自分の社会を、自分の県を、自分の国を良くしようとする。また周辺の国々とも仲良くし、世界の平和と繁栄のために、周囲の人とその輪を広げて行って、何ができるのかがんばってみる。よしんば結果が必ずしも良くなかったとしても、私はその努力というのは大変価値のあるものであり、一人ひとりにとって将来の養分として、教訓として多くを学び取ることが出来るものだと思います。

皆さんが積極的な姿勢で、このような問題をどうすれば解決できるだろう、自分の思いをどのようにして国内のみならず、国際社会に伝えることができるだろうと考える場合に、この明石塾での海外研修を含めた7か月の色々な経験は、必ずや将来のための血となり肉となるであろうと私は確信しております。」

研修報告

明石塾では次のとおり後期研修を行いました。

日付	午前	午後
10月26日(土)	英語研修13・14	東京フィールドワークまとめ、テーマ討論②
11月9日(土)	英語研修15・16	英語研修17・18
11月16日(土)	英語研修19・20【公開】	講義⑨【公開】緒方枝里奈氏 国際協力機構JICAアフリカ部 明石塾第1期生
12月7日(土)	英語研修21・22	海外研修準備
12月14日(土)	海外研修準備	
1月4日~10日	海外研修(マレーシア、シンガポール)	
1月11日(土)	海外研修まとめ	
2月1日(土)	英語研修23・24	講義⑩ 明石塾長
2月8日(土)	研修まとめ、成果発表会準備	
3月1日(土)	研修まとめ、成果発表会準備	研修まとめ、成果発表会準備
3月8日(土)		研修成果発表会、修了式



成果発表会



修了式

海外研修報告

7日間の海外研修では、両国における「多文化主義の現状」について、教育施設や企業訪問、市内フィールドワーク、農村地域でのホームビジットを通して体験的に学習しました。高校・大学訪問では、明石塾研修について英語でプレゼンテーションを行う機会もあり、お互いの文化社会や世界情勢について意見交換をし、交流を深めました。また、今年度は世界遺産マラッカを訪問し、東西文化融合の街並みを視察しました。



明石杯高校生英語コンテスト

11月22日、研究所では群馬県教育委員会、群馬県高等学校教育研究会英語部会との共催で明石杯高校生英語コンテストを開催し、県内地区予選を通過した71名が出場しました。コンテスト終了後は前年度に引き続きディベート・デモンストレーションが行われ、前橋高校と前橋女子高校のチームが「日本政府は輸入米の関税を撤廃すべきか」について、英語でディベートを行いました。

各部門の入賞者は次のとおりです。

部門 順位	レシテーション	スピーチ	プレゼンテーション	海外滞在経験者スピーチ
1位	川端 一輝 (共愛学園 1年)	田島 達矢 (前橋 2年)	美澤 邑依 (共愛学園 2年)	小倉 佑汰 (太田 1年)
2位	星野 尚子 (樹徳 1年)	山田 美香 (高崎女子 2年)	藤本 ミケイラ エミ (太田女子 2年)	須田 花 (伊勢崎興陽 1年)
3位	只木 日向子 (太田女子 2年)	川島 藍 (太田東 2年)	岩澤 ひかる (中央中等 1年)	坂口 拓己 (太田東 1年)
4位	田村 柚葉 (前橋西 2年)	北原 義也 (太田 2年)		
5位	峰岸 咲菜 (共愛学園 1年)	栗田 珠花 (中央中等 1年)		
6位	晴山 雄基 (中之条 3年)	清水 香理 (高崎女子 2年)		



〈特別賞〉

レシテーション
板橋 佳奈 (関東学園大附属 2年)
スピーチ
山川 佳穂 (四ツ葉学園 2年)
プレゼンテーション
屋比久 ケンジ (前橋西 3年)
秋草 七海 (四ツ葉学園 2年)
田村 優花 (渋川女子 2年)
海外滞在経験者スピーチ
北爪 桃和音 (中央中等 2年)

小学校英語活動支援事業

研究所では、館林市と連携して小学校の英語活動支援を行っています。

1月31日は館林市立第七小学校において小学校英語活動推進事業発表会が行われました。初めに研修主任より、研究主題に基づく1年間の各学年ごとの実践報告、成果と課題について発表があり、その後、1年生と5年生のクラスで公開授業、授業研究会が行われました。先生方が全員で協力して作り上げた楽しい授業を通して、児童の皆さんは英語に親しみながら、自信を持って先生や友達とコミュニケーション活動を行っていました。



大学高校英語教育連携事業

昨年度に引き続き、高崎市立高崎経済大学附属高等学校、県立伊勢崎高等学校、県立沼田女子高等学校と連携し、英語コミュニケーション研修を行いました。

各校とも「説得力のあるプレゼンテーション」を行うために必要なスキルの習得を目指し、年間3回の研修を通して本学外国人研究員とのコミュニケーション活動の他、テーマ設定の仕方や原稿の書き方、発表の仕方について学習しました。それぞれ最終回の研修では、これまでの活動の成果発表として、グループごとに設けたトピックについてプレゼンテーションを行いました。





英語教育講演会

12月21日、県内教育関係者を対象に英語教育講演会を開催し、岡田伸夫教授(関西外国語大学英語キャリア学部)が、「文法指導の連携とは何かー小中高大の連携をめぐる」という演題で講演を行いました。岡田教授はまず連携の形態について触れ、教えるべき内容の意味に着目して連携することが大切であるとし、各論として語順や句構造などを取り上げ、各教育段階における文法内容のレベル分けについて話しました。質問や意見も多く出され、参加者は、それぞれの教育段階における到達ビジョンを共有し、一体となって教育にあたるのが不可欠であると再認識しました。

グローバルカフェ

今年度は、5月中旬より年間31回のカフェを開催し、述べ1,500名以上の皆さんにご参加いただきました。第Ⅱ期最終日の12月12日には、カフェスペシャルを開催し、県内で英語を指導するALT1名と本学の文学部、国際コミュニケーション学部からそれぞれ1名の学生が英語によるプレゼンテーションを行いました。日頃の英語指導や留学先での経験を中心とした充実した内容で、発表後の質疑応答では、参加者の皆さんとの活発な意見交換が行われました。プレゼンターの皆さん、ご協力ありがとうございました。

平成26年度の開催については4月以降本学のホームページでご案内する予定です。どうぞご確認の上、引き続き多数のご参加をお待ちしております。



留学支援事業

留学帰国報告

本学の「海外留学支援制度」を利用し、毎年多くの学生が留学をしています。学生から帰国後寄せられた感想文より一部をご紹介します。



短期海外研修(語学留学)

カリフォルニア大学サンディエゴ校(アメリカ)
文学部英米文化学科3年 R.S.

今回の留学へは、アメリカの英語を直接聞いてみたいという思いで参加しましたが、思っていた以上に英語を聴いたり話したりする機会を多く持つことができました。私が参加したプログラムは、大学の学部生がクラスに来て一緒に会話をする授業やゲストスピーカーの講義を聴いてリスニングレポートを提出する授業など、英語を話す機会と聴く機会が多く、とても充実していました。英語を学ぶという共通の目的のもと、他国からの学生の積極性を目の当たりにして自分のモチベーションにすることができ、海外で英語を学ぶ利点を実感しました。

ホームステイ先ではホストファミリーと毎日話しをする機会を持つことができました。私は普段あまり積極的に話しをする方ではありませんが、話をよく聞いてくれるので、もっと話そうという気持ちになりました。

以前は文法的に正しく話そうとして、なかなか言葉が出てこないことが多かったのですが、ネイティブスピーカーとの会話を通して、文法を過度に気にする必要はないということを感じました。今後の課題は、間違いを恐れず、自分の伝えたいことをできるだけ正確に話せるようになることだと思います。

長期留学(交換留学) オクラホマ州立大学(アメリカ) 国際コミュニケーション学部3年 R.N.

留学中はアメリカの大学で授業を取り、様々な国から来ている留学生と友達になり、日本での生活とは違う経験をたくさんしてきました。その中で特に勉強面で気づいたこと、精神的に変ったことがあります。

まず、アメリカと日本の大学での授業の違いです。様々な分野の授業を取りましたが、どのクラスでも生徒が積極的に参加していました。クラスの規模に関係なく、学生が盛んに質問をし、意見を交換し合っていて、日本との違いに驚き、私も日本に戻ったら、授業中積極的に意見を述べていきたいと思いました。

もう一つ驚いたことは勉強量の多さです。授業後に図書館へ行き、深夜まで勉強することが当たり前になってきた頃、日本では勉強量が断然少なかったと気づきました。多くの知識も得ましたが、アメリカで学んだことは、興味のあることにはもっと貪欲になるべきだということです。学びたいことに貪欲になってこそ、大学生活が充実すると思います。

この留学を通して、積極的に授業に参加する姿勢が大切であること、興味のある分野を究める努力が必要であることを学びました。そして私自身やればできるという自信を持つことができ、以前と比べて更に成長できたと思います。

